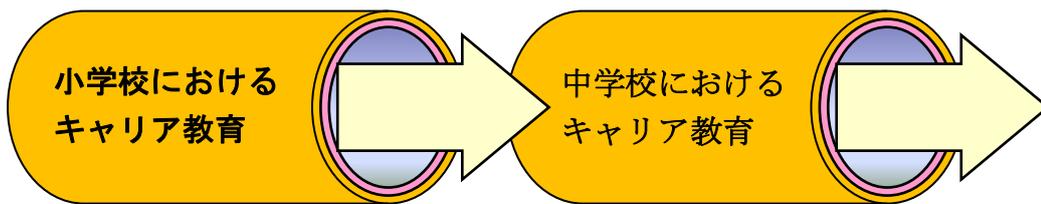


# 学校におけるキャリア教育の推進

## キャリア教育が目指すもの

- ・ひとりひとりのキャリア発達を支援します
- ・学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、学ぶ意欲を向上させます
- ・将来の社会的自立・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育てます
- ・望ましい勤労観・職業観を育てます



進学



社会での活躍

## キャリア発達とは？

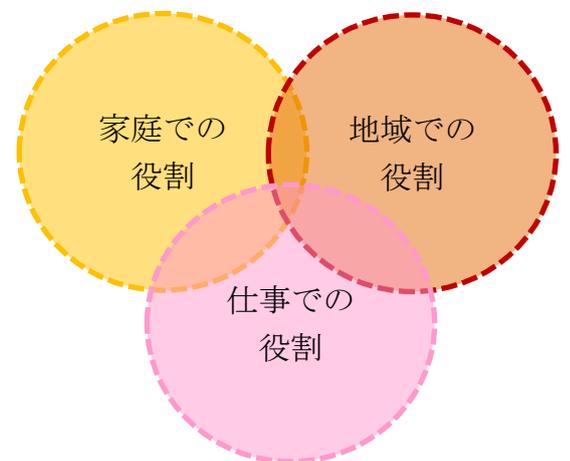
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく課程

(平成23年1月中教審答申より)

『キャリア』(career)は中世ラテン語の「車道」を起源とし、英語で、競馬場や競技場におけるコースやそのトラック(行路、足跡)を意味するものです。これが、「人が生きていく中での足跡」へと転じ、「生きていく中で担っていく様々な役割(家庭、地域社会での役割、仕事・職業)を表すようになりました。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会に関わることになり、そのかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくのです。

このように、人が生涯の中で様々な役割を果たす課程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが「キャリア」なのです。



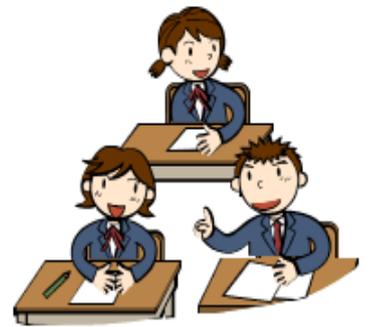
# キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成 23 年 1 月))

キャリア教育は、子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけです。そして、キャリアの形成に重要なのは、自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身につけることです。学校では子ども一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために、様々な教育活動を通して必要な能力や態度を育成していく必要があります。自分が自分として

生きるために、「学び続けたい」、「働き続けたい」と願い、それを実現させていく姿がキャリア教育の目指すものです。



## キャリア教育の必要性

なぜキャリア教育の重要性が叫ばれるのでしょうか？それには、地球規模の情報技術革新による社会経済・産業的環境の国際化、グローバル化があります。社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が子どもたちの将来のとりえ方に大きな変化をもたらしています。理想とするモデルが見つげにくく、希望あふれる夢を描くことも容易ではありません。

とどまることなく変化する社会環境の変化の中で、子どもたちが希望をもって、自立的に未来を切り拓いて生きていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠です。そのためにはさまざまな教育活動を通して、学ぶおもしろさや学びへの挑戦の意味を子どもたちに体得させることが大切です。生涯にわたって学び続ける意欲を持続する基盤づくりが求められているのです。また、多くの学校で実践されている自然体験、社会体験等の体験活動は、他者の存在の意義を認識し、社会への関心を高めたり社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなります。

また、このような基盤づくりには学校だけでなく、家庭や地域が学校と連携して、同じ目標に向かう協力体制を築くことが不可欠です。

社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにする教育が求められているのです。

# キャリア教育が必要になった背景と課題

情報化・グローバル化・少子高齢化・消費社会等

## 学校から社会への移行をめぐる課題

- ①社会環境の変化
  - ・新規学卒者に対する求人状況の変化
  - ・求職希望者と求人希望との不適合の拡大
  - ・雇用システムの変化
- ②若者自身の資質等をめぐる課題
  - ・勤労観、職業観の未熟さと確立の遅れ
  - ・社会人、職業人としての基礎的資質・能力の発達の遅れ
  - ・社会の一員としての経験不足と社会人としての意識の未発達傾向

## 子どもたちの生活・意識の変容

- ①子どもたちの成長・発達上の課題
  - ・身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向
  - ・生活体験・社会体験等の機会の喪失
- ②高学歴社会における進路の未決定傾向
  - ・職業について考えることや、職業の選択、決定を先送りする傾向の高まり
  - ・自立的な進路選択や将来計画が希薄なまま、進学、就職するものの増加

## 学校教育に求められている姿

「生きる力」の育成  
～確かな学力、豊かな人間性、健康・体力～

社会人として自立した人を育てる観点から

- ・学校の学習と社会とを関連づけた教育
- ・生涯にわたって学び続ける意欲の向上
- ・社会人としての基礎的資質・能力の育成
- ・自然体験、社会体験等の充実
- ・発達に応じた指導の継続性
- ・家庭・地域と連携した教育

キャリア教育の推進

# 山口県のキャリア教育

キャリア教育は、一人一人の発達や社会人・職業人としての自立を促す視点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示す教育であり、そのねらいを実現するためには、関連する様々な取組を各学校の教育課程に適切に位置付け、計画性と体系性をもって展開することが大切です。

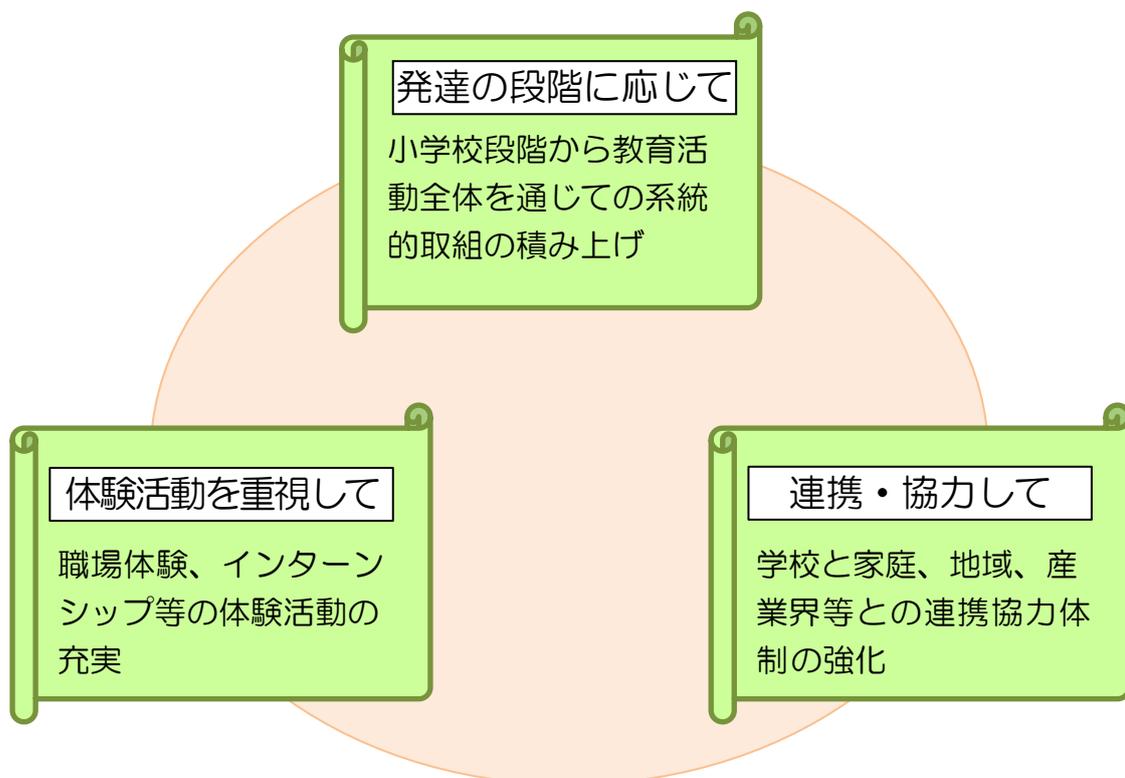
## 山口県のキャリア教育のねらい

夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成

## キャリア教育の進め方

志をもち、主体的に未来を切り拓く子どもたちを育成するためには、キャリア教育を通して、子どもたちの社会的・職業的自立に向けた基礎的・汎用的能力の育成を図ることが大切です。

そのためには、次の視点に基づいたキャリア教育の推進を図る必要があります。



また、発達段階に応じて、夢や目標を考える（夢をデザインするための）視点として、「自分がしたいこと」「自分ができること」「社会が求めていること」の3つの視点を設定し、各校種における取組の明確化と教育活動の充実を図ることとしています。

## (1) 小・中・高を通じた系統的・計画的なキャリア教育 (縦の接続)

子どもの発達には年齢に伴って自然と起こるものではありません。年齢と学習の相互作用によって起こる変化なのです。言い換えれば、年齢に適した学習が実践されることによって子どもの発達は促進されます。これはキャリア教育においても当てはまることなのです。それぞれの校種・学年に応じた適切な学習を積み重ねることでキャリア発達が促されていく視点を忘れてはいけません。

そこで、発達の段階に応じて、夢や目標を考える(夢をデザインするための)視点として、「自分がしたいこと」「自分ができること」「社会が求めていること」の3つの視点を設定し、各校種における取組の明確化と教育活動の充実を図ることとしています。

- 発達の段階に応じて、夢や目標を考える(夢をデザインするための)視点

3つの視点	小学校 (小学部)			中学校 (中学部)			高等学校 (高等部)		
	低学年	中学年	高学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
自分がしたいこと	様々な体験等を通じて自分がしたいことを見つけ、将来の夢や目標につなげる						→		
自分ができること	夢や目標の実現に向けて継続的に努力し、自分ができるところを増やし自分のよさを伸ばす						→		
社会が求めていること	社会の一員としての自覚を深め、自分の役割を果たそうとする意欲や能力を高める						→		

## (2) 学校と家庭、地域、産業界等が連携したキャリア教育 (横の連携・協力)

子どもたちを育てるのは学校ばかりではありません。職場見学、職場体験学習で地域の事業所等の協力が不可欠なのはもちろんのこと、豊かな心や健やかな体の育成には家庭の力が求められます。様々な教育上の課題が山積する現在、すべてを学校が抱え込むのではなく、学校の教育活動と家庭や地域、企業、NPO、青少年団体などによる学校外の教育活動の役割を明確にした上で、お互いが連携して教育活動を行う必要があります。そのためにも保護者や地域の方、事業所等も一緒になって地域の子どもたちを育てていく意識をもち、日頃から連絡を密にすることが大切です。

### 志を抱かせる教育

子どもたちが、これからの社会をたくましく生き抜くためには、一人ひとりが志を抱きながら、挑戦し続けようとする心を育てることが重要です。成人の半分の年齢、10歳を迎えたことを記念して将来の夢や保護者への感謝の気持ちを発表する「1/2成人式」や、15歳を機に、一人ひとりが、将来の夢や決意を全校生徒や保護者等の前で発表する「立志式」は、希望や意欲をもって今後の生活を送っていかうとする動機付けになるものであり、志をもたせるために意義深い教育活動の一つとして山口県で推進しているものです。

# キャリア教育で育む力

## キャリア教育で育む4つの力＝「基礎的・汎用的能力」

基礎的・汎用的能力とは、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度のことです。具体的内容については、「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れるという観点から、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力に整理をしました。

これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものです。この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にあるものです。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての子どもが同じ程度あるいは均一に身に付けなければならないというものでもありません。

## 基礎的・汎用的能力

## 例えばこんな力

### 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

他者の個性を理解する力  
他者に働きかける力  
コミュニケーション・スキル  
チームワーク  
リーダーシップ 等

### 自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

自己の役割の理解  
前向きに考える力  
自己の動機付け  
忍耐力・ストレスマネジメント  
主体的行動 等

### 課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

情報の理解・選択・処理等、  
本質の理解、原因の追究、  
課題発見、計画立案、実行力  
評価・改善 等

### キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、  
多様性の理解、将来設計、  
選択、行動と改善 等

# 全教育課程で進めるキャリア教育

## キャリア教育は新学習指導要領の基盤の一つ

学習指導要領には、「児童（生徒）が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」とあり、学校教育全体を通してキャリア教育を行うことが示されています。また、特別活動編には、学級活動の内容項目に「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」が設けられ、小・中・高等学校と発達段階に応じて、系統的にキャリア教育の充実を図ることが求められています。

キャリア教育を実践するにあたっては、各教科や「総合的な学習の時間」、道徳をはじめ、すべての教育活動を通じて「なぜ学ぶのか」「なぜ学びが重要なのか」を、生徒自身の将来や社会の在り方と照らし合わせて考えさせる指導が大切です。その意味で、「キャリア教育」＝「職場体験」といった狭い捉え方ではなく、学習指導要領全体の基盤の一つであると捉えることが大切です。

## キャリア教育の課題

### (1) 系統性のある全体計画や年間計画の作成

小・中・高等学校等を通じた取組に一貫性・系統性がやや欠けるため、学習内容の重複や、取組が児童生徒の成長に結びついていない場合があります。

全ての教職員がキャリア教育の趣旨を理解し、自校や地域の現状を共通理解するとともに、近隣の校種間で情報交換を行うなど連携を図りながら、キャリア教育の全体計画・年間計画を充実させていくことが必要です。

### (2) 児童生徒の成長・変容の把握と実践の検証（キャリア教育の評価）

キャリア教育の成果に関する評価が十分に行われていないため、必要に応じて指導の在り方や組織を見直すなど改善に生かされていないという課題があります。

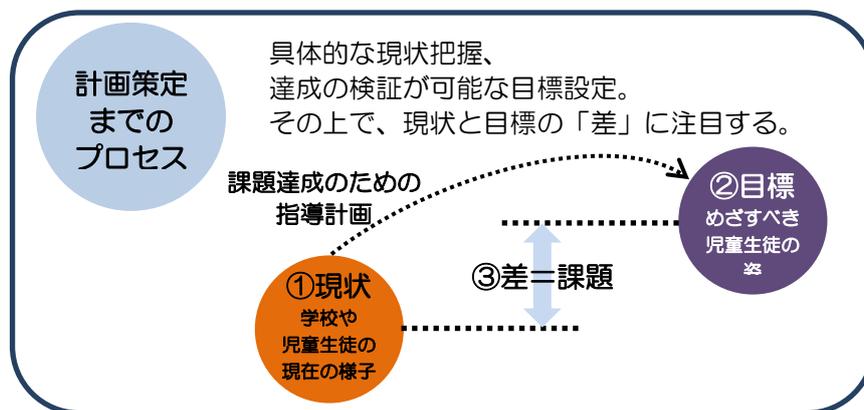
児童生徒の成長や変容をとらえるには、アンケートや自己評価・相互評価などを活用した定量的な評価と、観察や面談・面接などによる定性的な評価があります。また、児童生徒の活動の記録等を集積したポートフォリオは、一人一人の指導・支援に役立てるための有効な資料となります。さらに、それを学校種間で引き継ぐことで連携の活性化につなげることもできます。

実践の検証については、児童生徒の成長を促したものの、あるいは、成長に結びつかなかった理由に焦点を当てながら実践を振り返り、キャリア教育の取組をPDCAサイクルの中で改善していくことが必要となります。

# キャリア教育の推進に向けて

キャリア教育のねらいを実現するためには、関連する様々な取組を各学校の教育課程に適切に位置付け、計画性と体系性をもって展開することが必要です。また、キャリア教育の実践が、より効果的な活動となるためには、各学校における到達目標とそれを具体化した教育プログラムの評価の項目を定め、その項目の基づいた評価を適切に行い、具体的な教育活動の改善につなげていく、各学校における学校の特色等を踏まえた創意あるPDCAサイクルを確立することが重要です。

## (1)【PLAN】：指導計画の作成



### ① 学校や児童生徒の現状の把握

PDCAのスタートは、学校の現状把握から始まります。児童生徒の実態や学校の特色、地域の実情など様々な視点から現状を把握することが大切です。自校の現状とキャリア教育の方向性について教職員全体で共通理解を図りましょう。

現状の把握に当たっては、生徒・保護者へのアンケート、学校評議員や地域住民の意見、接続する学校の児童生徒の実態などを十分に踏まえることが大切です。

キャリア教育アンケートの一例

社会形成能力 人間関係形成	①	友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。	4	3	2	1
	②	相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	4	3	2	1
	③	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	4	3	2	1
自己管理能力 自己理解	④	自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。	4	3	2	1
	⑤	気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。	4	3	2	1
	⑥	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	4	3	2	1
課題対応能力	⑦	分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。	4	3	2	1
	⑧	何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。	4	3	2	1
	⑨	何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。	4	3	2	1
キャリアプラン ニング能力	⑩	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。	4	3	2	1
	⑪	自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。	4	3	2	1
	⑫	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。	4	3	2	1

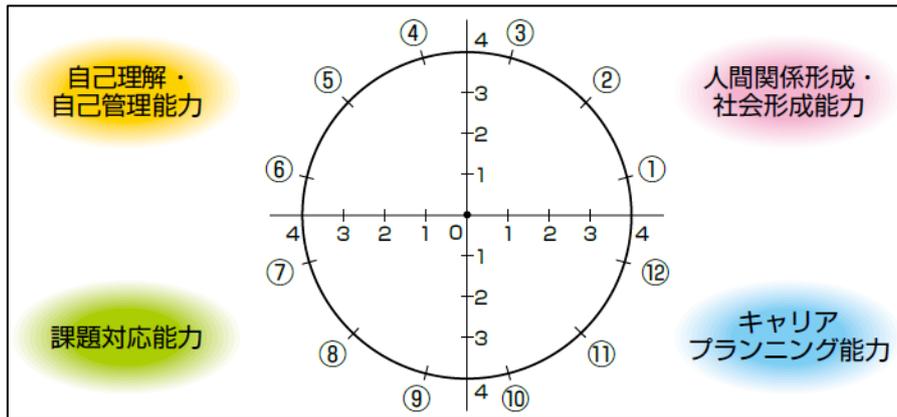
(4：いつもしている 3：時々している 2：あまりしていない 1：ほとんどしていない)

② めざすべき児童生徒の姿（目標）の明確化

児童生徒の実態やキャリア発達、地域の実態などを踏まえ、学校ごとに育成しようとする能力や態度の目標を定めることが重要です。そのためには、基礎的・汎用的能力の実態をもとに、学校で育成すべき能力や態度を具体化・重点化する必要があります。たとえば、前ページのようなアンケート調査を生徒とともに教職員や保護者に対しても行い、その結果をレーダーチャート（下図）として整理するなど、「基礎的・汎用的能力」の4つの能力の現状のあらましを把握することも有効です。

目標設定に当たっては、児童生徒に「何をできるようにさせたいか」という視点で言語化され、検証が可能である目標を、児童生徒の卒業時点の状態を想定して表現することがポイントとなります。

基礎的・汎用的能力の実態の分析及び課題の把握をするためのシート例



③ 課題の設定及び指導計画（全体計画・年間計画）の作成

「児童生徒の現状」と「キャリア教育でめざすべき児童生徒の姿（目標）」の差がキャリア教育を通して達成すべき課題となります。明らかになった課題を指導計画に反映させ、各学校の教育課程に適切に位置付けられた学校の創意工夫による指導計画を作成します。全体計画は、児童生徒のキャリア発達を促進するために必要とされる諸能力を、意図的・継続的に育成していくために、各学校における教育目標や育成したい能力や態度、教育内容と方法、各教科等との関連等を示すものです。また、各学年における年間指導計画は、発達の段階における能力や態度の到達目標を具体的に設定するなど、全体計画を具現化したものであり、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学級や学年の取組等の相互の関連性や系統性に留意すること、また、到達目標に応じた評価の視点を設定し、明確化することが求められます。

年間指導計画のイメージ図

	1年	2年	3年	付けたい力
学校行事	..	..	..	人間関係形成・社会形成能力
総合的な学習の時間	..	..	..	自己理解・自己管理能力
特別活動	..	..	..	課題対応能力
道徳	..	..	..	課題対応能力
各教科	..	..	..	キャリアプランニング能力

## (2)【DO】：教育活動の展開

### ① キャリア教育の「宝」の洗い出し

各学校の展開されている様々な教育活動をキャリア教育の視点から振り返り、その中から、キャリア教育の実践場面として有効なもの（キャリア教育の断片＝「宝」）を洗い出しましょう。「宝」の例としては、次の4つが考えられます。

#### 指導内容に関すること

たとえば、各教科の中で扱われる単元や題材が、生活や社会、職業や仕事に関連する場合、それらを一人一人の児童生徒の将来に直接関わることとして理解させます。

#### 指導手法に関すること

たとえば、話し合い活動やグループ活動の活用など、指導方法の工夫・改善を通して、社会生活・職業生活にも応用できる能力を高めます。

#### 生活や学習の習慣・ルールに関すること

たとえば、学習規律の徹底、時間の遵守、片付けの仕方などに関する指導を通して、自らを律する力や様々な課題に対応する力を高めます。

#### 体験的な活動に関すること

たとえば、社会人講話や職場見学、職場体験学習については、「めざす姿、付けさせたい力」を念頭に入れて、事前・事後指導も含めて体系的・系統的に取り組みます。

### ② 「宝」をつなげ、体系的・系統的な指導に

各学校において、基礎的・汎用的能力を踏まえながら、特に子どもたちに身に付けさせたい力を判断し、優先順位を付けて、単元や題材を焦点化します。焦点化された「宝」をつなぎ合わせ、目の前の子どもたちの「めざす姿」「付けさせたい力」を視野に入れ、教育意図に基づく体系的・系統的な指導を展開することが重要です。そのために、以下の点に留意しながら、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など、それぞれの教育活動の特質を生かしつつ、相互の関連を図ることが大切です。

- その単元や題材を通したキャリア教育のねらいは具体的か
- 教科等での取組や体験的なキャリア教育の実践との関連は図られているか
- 子どもたちに「なぜ学ぶのか」を伝える機会を設けているか

また、学年や学級などの集団を対象とした指導や支援と並行して、キャリアカウンセリングや一人一人への働きかけの拡充など、個別の支援の充実も必要となります。計画的・定期的な面談の機会だけでなく、授業中や休み時間などの言葉がけなどを通して、自己の可能性や適性について自覚させたり、課題達成の状況を自ら振り返らせ、内省を促したりしましょう。

### (3) 【CHECK】：多面的・多角的な評価

#### ① 児童生徒の変化の把握（なにを、いつ、どのように）

児童生徒は日々の学校生活を通じて成長し、変容しています。評価を通して把握しようとするのは、このような児童生徒の変化です。変化をとらえるには、アンケートや各活動における自己評価・相互評価などを活用した定量的な評価と、観察や面接・面談などの印象に基づく定性的な評価があります。児童生徒の様々な側面を見るために、必要に応じて評価方法を組み合わせることが大切となります。

また、評価をいつ実施するかということについては、あらかじめ設定した計画に基づいて、特定の取組の前後に実施するのが一般的ですが、様々な取組が連続する場合には、学年や学期の初め、中間段階、学期末・学年末に実施することも考えられます。ただし、同じようなアンケートを高頻度で実施すると場合、結果に影響を与えることもあるので注意が必要です。

#### ② 教育活動の評価

キャリア教育における評価には、教育活動としてのキャリア教育全体の評価の視点もあります。各学校の目標及び育成する能力や態度、教育内容・方法等との関係から、生徒にどのような力が身に付いたのか、その育成のための教育活動は効果的であったのか、指導計画は適切であったのかなど、多面的に評価することが求められます。また、学校評価などの教育活動の評価結果を受けて、教職員はもとより保護者や地域の関係諸機関との連携により、改善に向けた評価結果の分析・検討を行い、改善につなげていくことが必要です。

#### 評価を Check !

##### ●児童生徒の成長・変容の把握

キャリア教育を通じた児童生徒の変容や成長については…

特に意識して把握していない

学校生活を通じた把握と合わせて、身に付けさせたい力の視点から意識調査等を行い、分析結果を教員間で共有している

##### ●実践の振り返りと検証

キャリア教育の取組に関する振り返りや評価については…

特に意識して振り返りをしていない

取組の円滑な実施という観点のほかに、年度末などに全般的な取組の成果と課題について教員間で意見交換をしている

##### ●学校評価との関連

学校評価におけるキャリア教育の位置付けについて

キャリア教育に関する評価項目は含まれていない

キャリア教育の関する項目が含まれており、結果については、経年変化などの分析も加え、教員間で共有している

#### (4) 【ACTION】：分析を次に生かして

##### ① 指導に生かす

教育活動の改善に当たっては、評価の結果に基づき、教師一人一人が日常の授業や学習活動を見直し、その問題点や課題解決に取り組むことが重要です。その際の視点としては、次の2つが考えられます。

###### 指導計画の修正に生かす

目標に対して不足している能力や資質が明らかになったら、どのような方法でその能力を向上させるのか、そのためにどの活動を強化すればよいかを検討しましょう。

###### 個別支援・指導に生かす

全体的な傾向を検討して取組の改善を図るだけでなく、一人一人の状況をできるだけ正確に把握し、変容の有無とその要因をとらえ、指導の方針を検討しましょう。

##### ② 組織に生かす

指導計画の改善に当たっては、評価結果を踏まえ、できるだけ客観的かつ多面的・多角的な視点で検討を行い、キャリア教育推進委員会などにおいて改善策を十分に行うことが重要です。その際の視点としては、次の2つが考えられます。

###### 運営組織の改善に生かす

学年間、分掌間、地域や企業、保護者との連携や、地域施設や人的資源の活用などをスムーズに行うためにキャリア教育に関わる校内組織の在り方を見直しましょう。

###### 校内研修に生かす

具体的な活動の後や年間を通じた実践の最後に校内研修において振り返りを行うことで、気づきや教訓を共有しながら、新しい状況に応用していきましょう。

##### ③ 地域に生かす

発達の段階に応じた系統的・計画的な取組を推進するために、校種間の円滑な連携・接続を図ること、また、評価の結果を外部に公表し、地域や社会との連携を推進することが重要です。その際の視点としては、次の2つが考えられます。

###### 学校間連携に生かす

中学校区ごとの小・中キャリア教育担当者連絡会議などにおいて、取組の情報交換、キャリア発達認識の共有、指導内容の系統性などについて共通理解を図りましょう。

###### 地域・社会連携に生かす

評価結果を踏まえ、キャリア教育の意義や目的、児童生徒に身に付けさせたい力など学校側のニーズをしっかりと伝え、職場見学や職場体験などを充実させましょう。

#### 【参考資料・引用】

- 中学校キャリア教育の手引き（平成 23 年 3 月 文部科学省）
- 自分に気づき、未来を築くキャリア教育 ―小学校におけるキャリア教育推進のために―  
（平成 21 年 3 月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター）
- 自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育 ―中学校におけるキャリア教育推進のために―  
（平成 21 年 11 月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター）
- 自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育 ―高等学校におけるキャリア教育推進のために―  
（平成 22 年 2 月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター）
- キャリア教育の更なる充実のために ―期待される教育委員会の役割―  
（平成 23 年 2 月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター）
- キャリア教育を「デザイン」する ―小・中・高等学校における年間指導計画作成のために―  
（平成 24 年 8 月 文部科学省、国立教育政策研究所生徒指導研究センター）